

小規模企業の景況

(2026年7～9月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)2026年7～9月期の結果概要は以下の通り。今期(2026年7～9月期、調査基準日:9月1日)の業況判断DIは▲13.1(前回調査▲15.0)となり、上昇した。売上額DI値は▲6.0(前回調査▲4.7)、資金繰りDI値は▲13.5(前回調査▲12.2)、従業員数過不足DI値は▲17.9(前回調査▲14.6)となり、低下した。「経営上の問題点」では、「仕入単価の上昇」が小売業で17期連続、卸売業で10期連続の第1位となった。製造業では前回調査に引き続き「原材料価格の上昇」が第1位となった。また、サービス業では「利用者ニーズへの対応」に加えて「材料等仕入れ原価の上昇」が第1位となり、引き続き原材料価格や仕入原価の上昇が経営上の課題になっている。

1. 今期(2026年7～9月期)の状況

【業況判断】今期の業況判断DI(全産業)は、前回調査(▲15.0)から1.9ポイント上昇し、▲13.1となった。業種別では前回調査から、製造業が4.3ポイント、卸売業が9.8ポイントそれぞれ上昇し、小売業が1.0ポイント、サービス業が5.5ポイントそれぞれ低下した。

【売上額】今期の売上額DI(全産業)は、前回調査(▲4.7)から1.3ポイント低下し、▲6.0となった。業種別では前回調査から、製造業が9.7ポイント、サービス業が0.3ポイント上昇し、卸売業が0.4ポイント、小売業が17.9ポイントそれぞれ低下した。

【資金繰り】今期の資金繰りDI(全産業)は、前回調査(▲12.2)から1.3ポイント低下し、▲13.5となった。業種別では前回調査から、製造業が0.2ポイント、卸売業が1.1ポイント、サービス業が0.5ポイントそれぞれ上昇し、小売業が7.5ポイント低下した。

【従業員数過不足】今期の従業員数過不足DI(全産業)は、前回調査(▲14.6)から3.3ポイント低下し、▲17.9となった。業種別では前回調査から、小売業が13.7ポイント上昇し、製造業が13.7ポイント、卸売業が0.6ポイント、サービス業が8.4ポイントそれぞれ低下した。

2. 来期(2026年10～12月期)の予想

来期(2026年10～12月期)の全産業の予想DIは、業況判断は▲12.7、売上額▲4.8、資金繰り▲13.9となった。

3. 経営上の問題点

前回調査からおおむね変化はなく、製造業で「原材料価格の上昇」、卸売業・小売業で「仕入単価の上昇」が第1位となった。また、サービス業では「利用者ニーズへの対応」が引き続き第1位となったほか、「材料等仕入単価の上昇」も上位項目となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(2025年7～9月期)と比較して売上額、業況判断、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

【調査の概要】

- ・調査名：第185回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
 - ・調査時期：2026年8月19日～9月6日（前回：2026年5月21日～6月8日）
 - ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
 - ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
 - ※ 全国18,825件中（商工会議所調査対象7,966件）、大阪商工会議所分324件。
 - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）252件について取りまとめた。
- 〔製造業72件、卸売業56件、小売業55件、サービス業69件〕

■DI推移（全産業）

	182回調査	183回調査	184回調査 (前回)		185回調査 (今回)	
	2025年(R7) 10～12月期	2026年(R7) 1～3月期	2026年(R8) 4～6月期	2026年(R8) 7～9月期 予想	2026年(R8) 7～9月期	2026年(R8) 10～12月期 予想
業況（好-悪）	-17.4	-12.5	-15.0	-16.5	-13.1	-12.7
売上額（増-減）	-17.8	-8.2	-4.7	-5.1	-6.0	-4.8
資金繰り（好-悪）	-16.2	-13.7	-12.2	-15.7	-13.5	-13.9
従業員（過-不）	-15.4	-16.0	-14.6	-	-17.9	-

■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	原材料価格の上昇 →	29 (28)	仕入単価の上昇 →	23 (29)	仕入単価の上昇 →	14 (14)	利用者ニーズへの対応 →	10 (13)
							材料等仕入単価の上昇 ↑	10 (9)
2位	需要の停滞 →	10 (9)	需要の停滞 →	9 (7)	需要の停滞 →	7 (8)		
	生産設備の不足・老朽化 ↑	10 (8)						
3位			人件費の増加 ↑	3 (1)	消費者ニーズの変化への対応 →	5 (6)	人件費の増加 →	9 (8)
			販売単価の低下・上昇難 ↑	3 (1)	大型店・中型店の進出による競争の激化 ↑	5 (3)		

〔注〕（ ）内は前回（2026年4～6月期）調査結果

↑＝前回より高順位

→＝前回と同順位

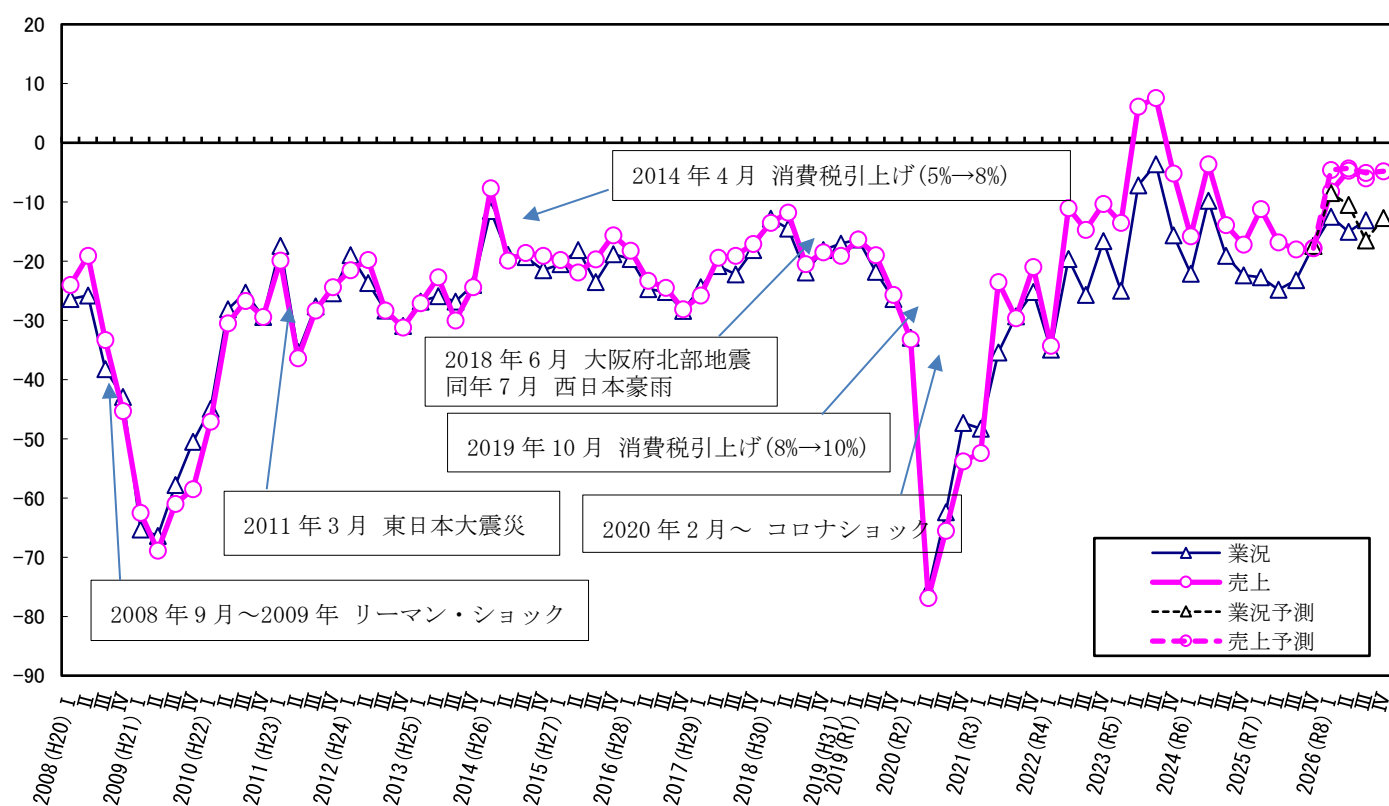
↓＝前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(7～9月期)				前回(4～6月期)からの推移	来期の予想(10～12月期)			
業況		増加	不変	減少	増－減		増加	不変	減少	増－減
	製造業	22.2	51.4	26.4	▲ 4.2	4.3	16.7	58.3	20.8	▲ 4.2
	卸売業	12.5	57.1	26.8	▲ 14.3	9.8	12.5	55.4	30.4	▲ 17.9
	小売業	16.4	49.1	34.5	▲ 18.2	▲ 1.0	12.7	52.7	29.1	▲ 16.4
	サービス業	17.4	47.8	34.8	▲ 17.4	▲ 5.5	15.9	53.6	30.4	▲ 14.5
	合計	17.5	51.2	30.6	▲ 13.1	1.9	14.7	55.2	27.4	▲ 12.7
	前回	15.0	55.1	29.9	▲ 15.0		13.8	53.5	30.3	▲ 16.5
		好転	不変	悪化	好－悪		好転	不変	悪化	好－悪
売上額	製造業	29.2	50.0	20.8	8.3	9.7	23.6	55.6	20.8	2.8
	卸売業	28.6	28.6	41.1	▲ 12.5	▲ 0.4	30.4	35.7	32.1	▲ 1.8
	小売業	30.9	23.6	45.5	▲ 14.5	▲ 17.9	25.5	36.4	36.4	▲ 10.9
	サービス業	26.1	39.1	34.8	▲ 8.7	0.3	21.7	46.4	31.9	▲ 10.1
	合計	28.6	36.5	34.5	▲ 6.0	▲ 1.3	25.0	44.4	29.8	▲ 4.8
	前回	26.4	42.1	31.1	▲ 4.7		23.2	48.0	28.3	▲ 5.1
		好転	不変	悪化	好－悪		好転	不変	悪化	好－悪
	製造業	5.6	80.6	13.9	▲ 8.3	0.2	2.8	80.6	16.7	▲ 13.9
資金繰り	卸売業	7.1	69.6	23.2	▲ 16.1	1.1	7.1	66.1	25.0	▲ 17.9
	小売業	7.3	72.7	20.0	▲ 12.7	▲ 7.5	7.3	76.4	16.4	▲ 9.1
	サービス業	7.2	66.7	24.6	▲ 17.4	0.5	7.2	69.6	21.7	▲ 14.5
	合計	6.7	72.6	20.2	▲ 13.5	▲ 1.3	6.0	73.4	19.8	▲ 13.9
	前回	7.1	72.8	19.3	▲ 12.2		5.1	72.8	20.9	▲ 15.7
		過剰	適正	不足	過－不					
	製造業	1.4	63.9	31.9	▲ 30.6	▲ 13.7				
	卸売業	0.0	80.4	16.1	▲ 16.1	▲ 0.6				
従業員	小売業	3.6	76.4	5.5	▲ 1.8	13.7				
	サービス業	4.3	69.6	23.2	▲ 18.8	▲ 8.4				
	合計	2.4	71.8	20.2	▲ 17.9	▲ 3.3				
	前回	2.8	74.8	17.3	▲ 14.6					
		過剰	適正	不足	過－不					
	製造業	1.4	63.9	31.9	▲ 30.6	▲ 13.7				
	卸売業	0.0	80.4	16.1	▲ 16.1	▲ 0.6				
	小売業	3.6	76.4	5.5	▲ 1.8	13.7				

「今期の状況（除従業員）」は2026年7～9月期状況であり、前年同期の2025年7～9月期との比較。来期の予想は2026年10～12月期予想であり、2025年10～12月期との比較である。「前回」欄は2026年4～6月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※Ⅰ期=1-3月、Ⅱ期=4-6月、Ⅲ期=7-9月、Ⅳ期=10-12月

※2026年Ⅳ期予想値